

1 高校生の生活と意識に関する調査—日本・米国・中国・韓国の比較—

キーワード

体験活動、自己肯定感、正義感・思いやりがある行動、自尊感情

国立青少年教育振興機構では、平成 26 年度に日本、米国、中国、韓国の 4 か国の高校生を対象として「高校生の生活と意識に関する調査」を実施した。この調査は、高校生の意識を把握し、今後の青少年教育に役立てることを目的として、平成 26 年 9 月から 11 月に、日本、米国、中国、及び韓国の 4 か国が共同して行ったものである。学校で調査票を配布し、生徒に記入してもらう方法で調査を行い、4 か国あわせて 7,761 名から有効回答を得た（表 1）。

表 1 有効回収数と回収率

	日本	米国	中国	韓国
有効回収数	1,850	1,560	2,518	1,833
回収率	92.2%	82.1%	99.7%	99.8%

1. 体験活動

日本の高校生は、「家族や親族のお墓参りをしたこと」「野菜や果実の栽培や収穫などの農作業を体験したこと」があると回答した割合は高いが、キャンプなどのアウトドア活動をしたことが「ある」と回答した者の割合は、4 か国中 3 番目である。また、「体の不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと」「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」といった体験が「ある」と回答した者の割合は、日本の高校生は他の 3 か国と比べて低い（図 1）。

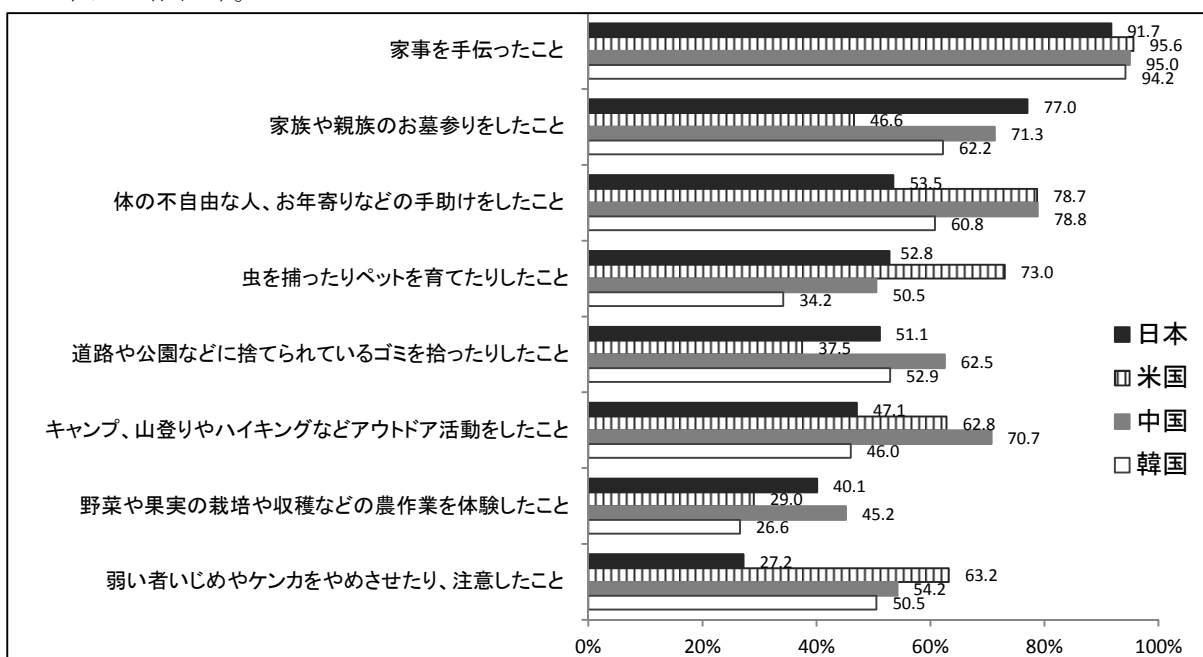


図 1 体験活動（「何度もある」「少しある」と回答した者の割合）

2. インターネットの利用

日本の高校生は、平日一日にインターネットを利用する時間に関する質問に対して「ほとんど使わない」という回答が、他の3か国と比べて少ない（図2）。

また、「インターネット上でのつきあいは危険やトラブルに巻き込まれる可能性がある」と回答した日本の高校生の割合は、90.4%と他の3か国と比べて最も高くなっている。「インターネット上では、自分の言いたいことを何でも言ってよいと思う」「インターネット上の書き込みは信用できると思う」と回答した日本の高校生の割合は、他の3か国と比べて低い（図3）。

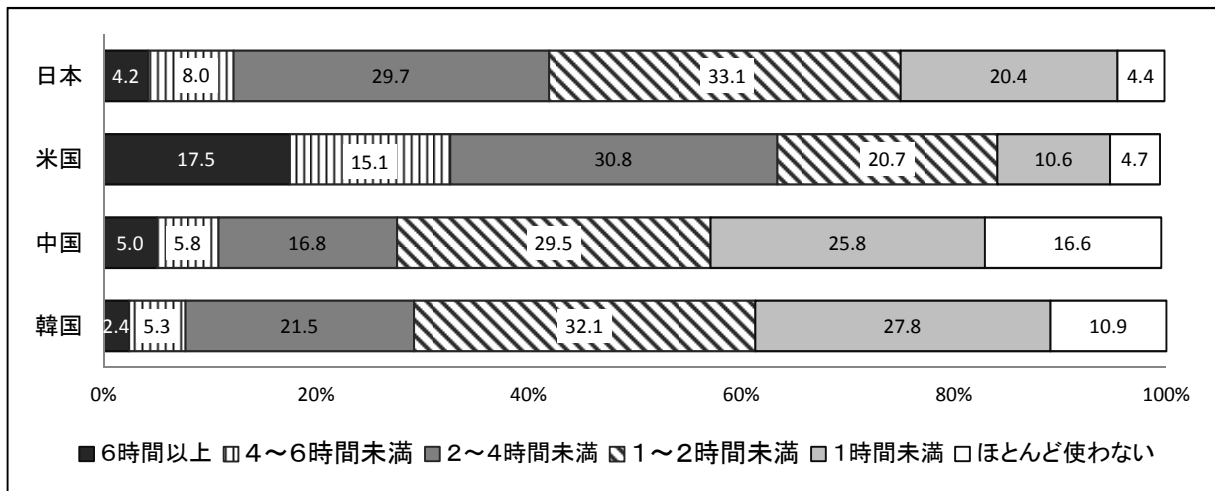


図2 平日、一日にインターネットを利用する時間
※無回答があるため、合計は100%にならない。

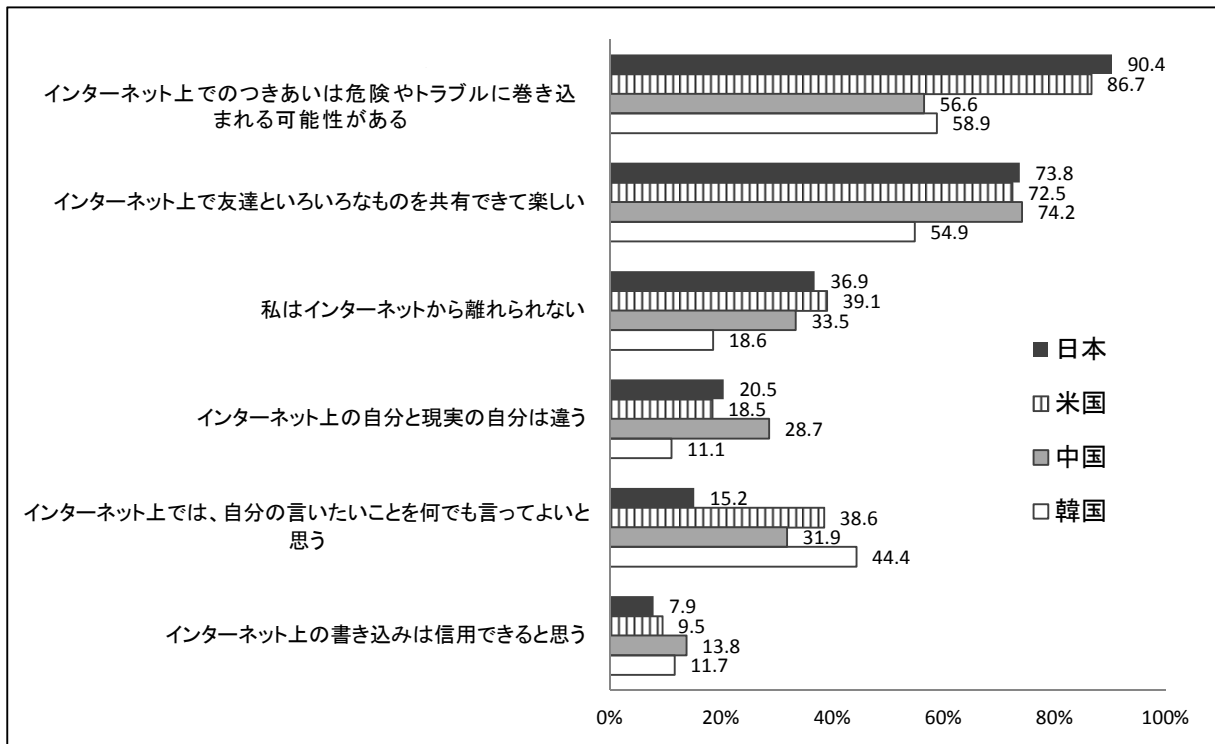


図3 インターネットの利用について（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合）

3. 勉強

「勉強が大事だ」という回答は、4か国とも9割前後となっている（図4）。

勉強の目的については4か国とも、「将来、希望する仕事に就くため」「大学進学のため」という回答が多い。日本の高校生は「将来、希望する仕事に就くため」「社会の役に立つ人間になるため」と回答した者の割合が他の3か国と比べて高い（図5）。

将来、希望する学校段階について、日本の高校生は「四年制大学まで」と回答した割合が他の3か国と比べて高く、「大学院修士まで」「大学院博士まで」と回答した割合は他の3か国と比べて低い（図6）。

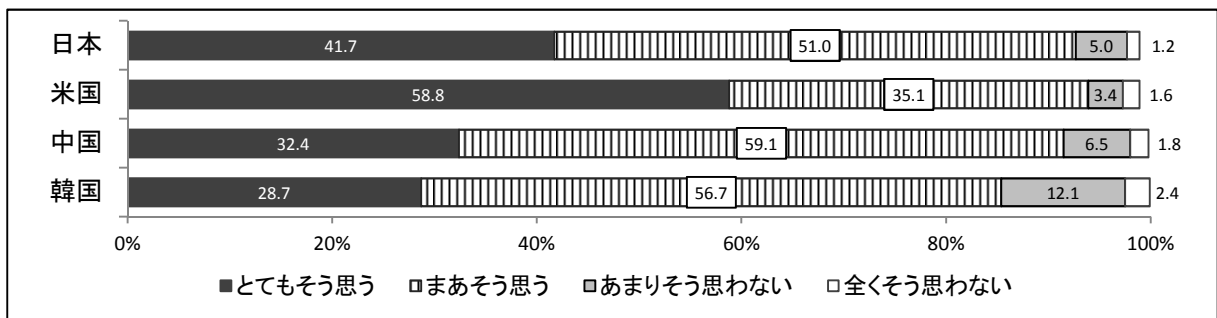


図4 勉強が大事だと思うか

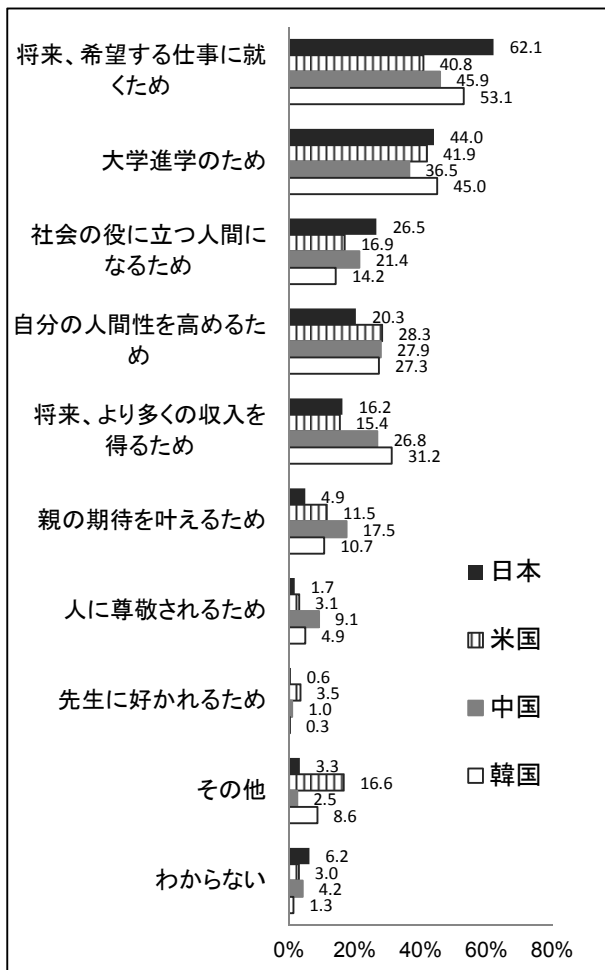


図5 勉強の目的（2つまで選択）

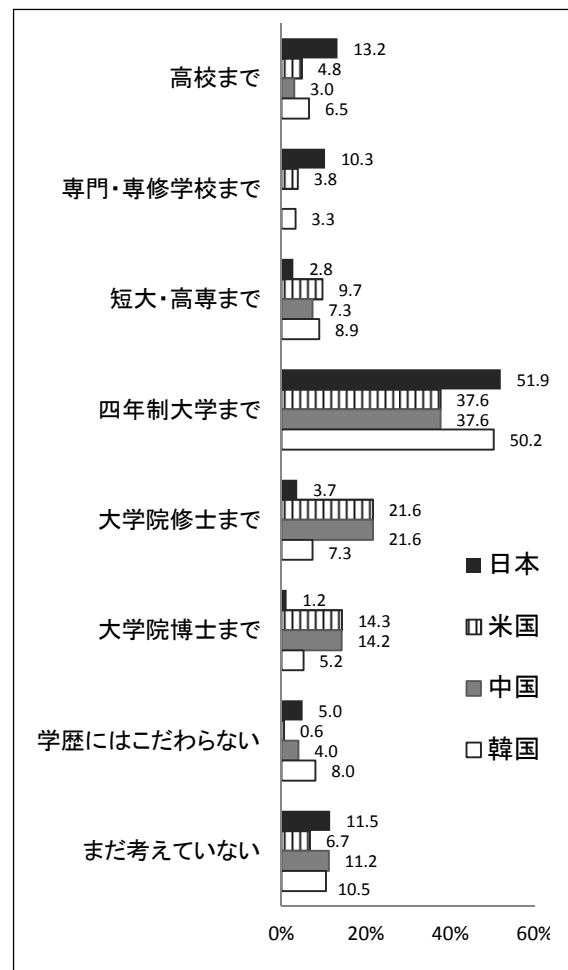


図6 将来、どの程度の教育を受けたいか

4. 親子関係

「家族との関係が良好である」という回答は、4か国とも9割前後である（図7）。一方、日本の高校生は、「親（保護者）を尊敬している」（図8）「どんなことをしてでも自分で親の世話をしたい」と回答した割合が他の3か国と比べて低い（図9）。

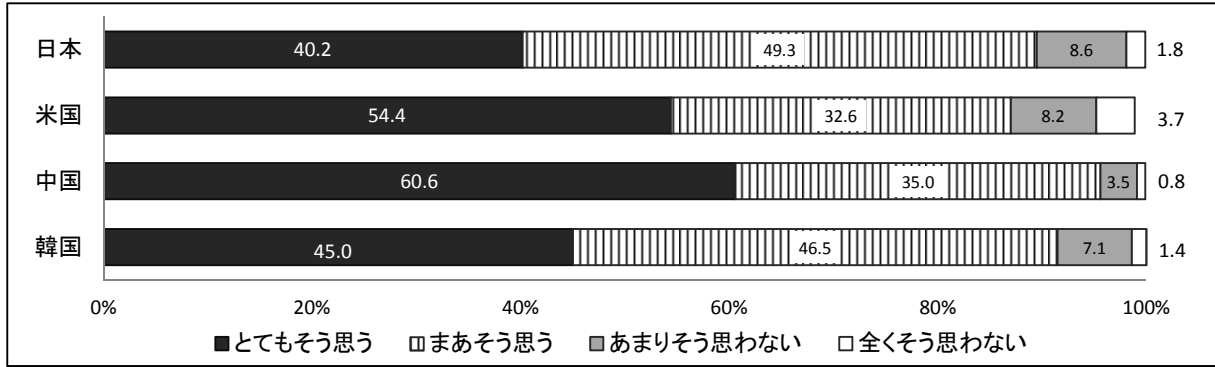


図7 家族との関係が良好である

※無回答があるため、合計は100%にならない。

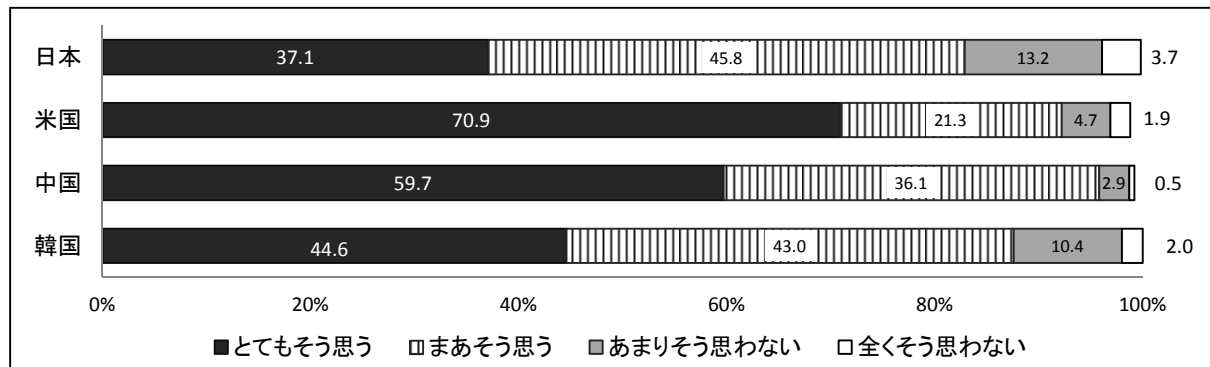


図8 親（保護者）を尊敬している

※無回答があるため、合計は100%にならない。

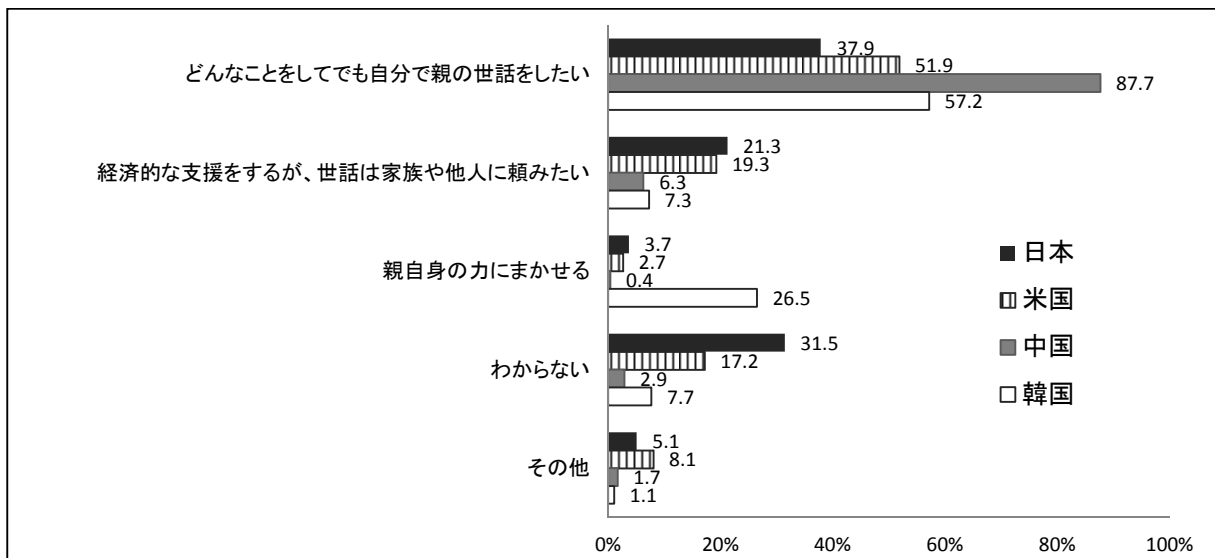


図9 親が高齢となり、あなたが世話をすることになった場合、どのようにしますか

5. 人生の目標

人生の目標については、4か国とも「自分が幸せと感ずること」「円満な家庭を築くこと」と回答した者の割合が高い。日本の高校生は、「自分が幸せと感ずること」「円満な家庭を築くこと」「のんびりと気楽に暮らすこと」「自分の趣味を生かす暮らしをすること」「周囲から認められること」「お金持ちになること」「高い社会的地位につくこと」という質問に対して、「とてもそう思う」と回答した者の割合が、他の3か国と比べて低い（図10）。

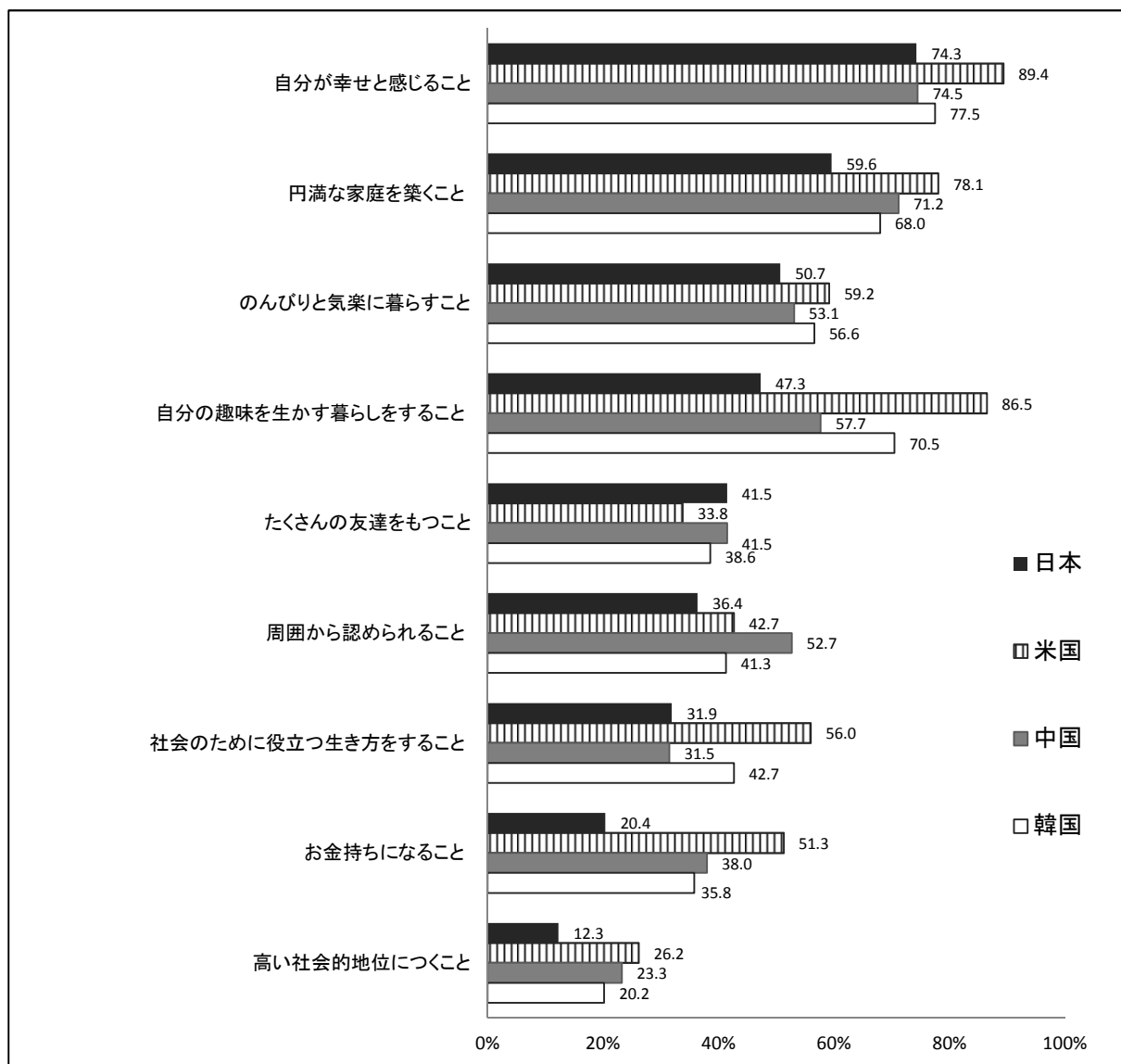


図10 人生の目標（「とてもそう思う」と回答した者の割合）

6. 社会や国に対する考え方

日本の高校生は、「自国で暮らすことに満足している」という回答が他の3か国と比べて高い。「いまの社会は貧富の差が大きい」「自国は競争が激しい社会である」「国のために尽くすことは大切だ」「外国の生活に憧れている」「国の発展は私個人の発展とつながっている」「自国の未来は明るい」に「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計と回答した割合は、他の3か国と比べて低い（図11）。

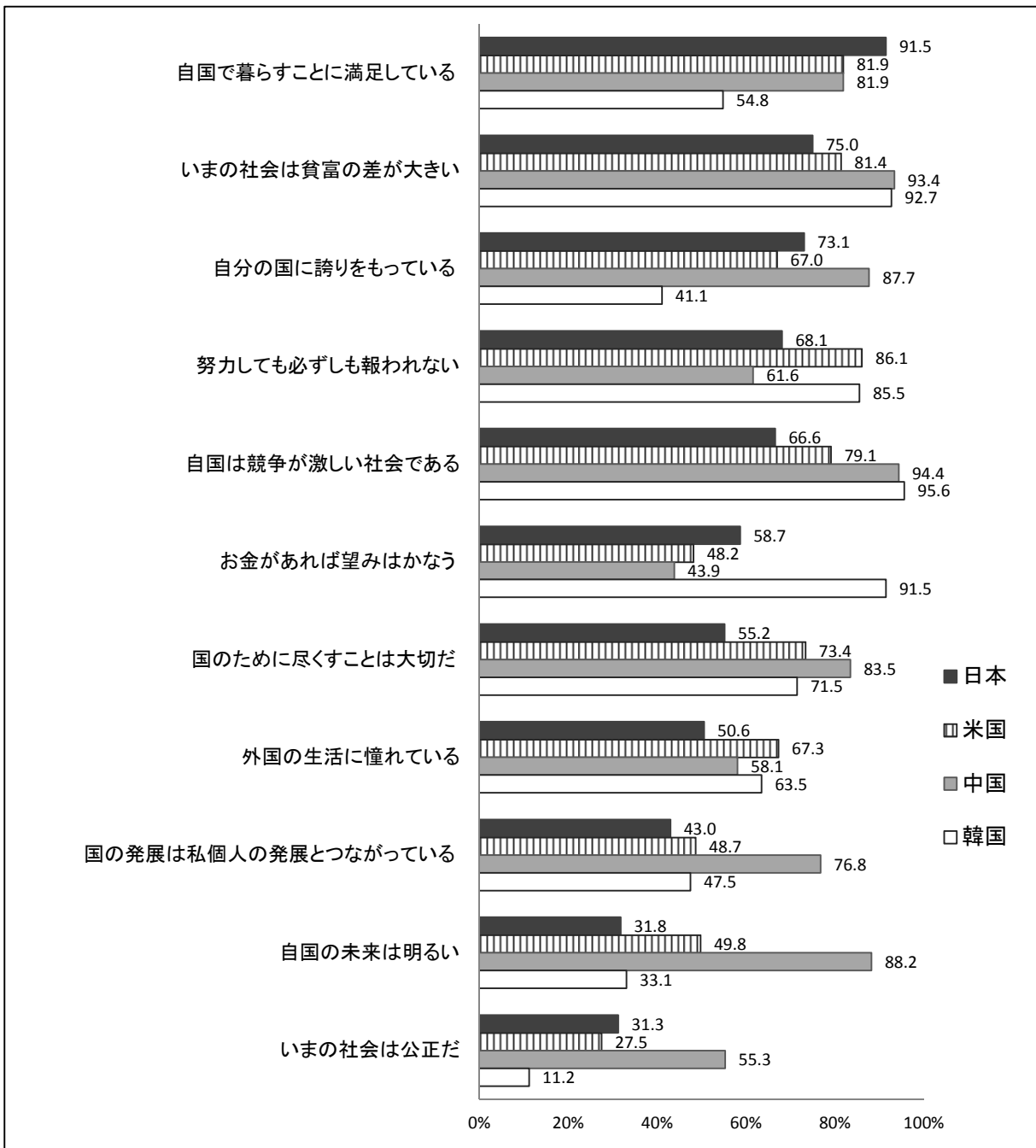


図11 社会や国に対する考え方（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合）

7. 自分について（自己肯定感等）

「私は人並みの能力がある」「自分の希望はいつか叶うと思う」「私は将来に対し、はっきりした目標をもっている」と回答した者の割合は、各国とも5割を超えるが、日本の高校生は他の3か国と比べると低い。

日本の高校生は、「自分はダメな人間だと思うことがある」という質問について「そう思う」と回答した割合は7割を超え、他の3か国と比べて最も高い（図12）。

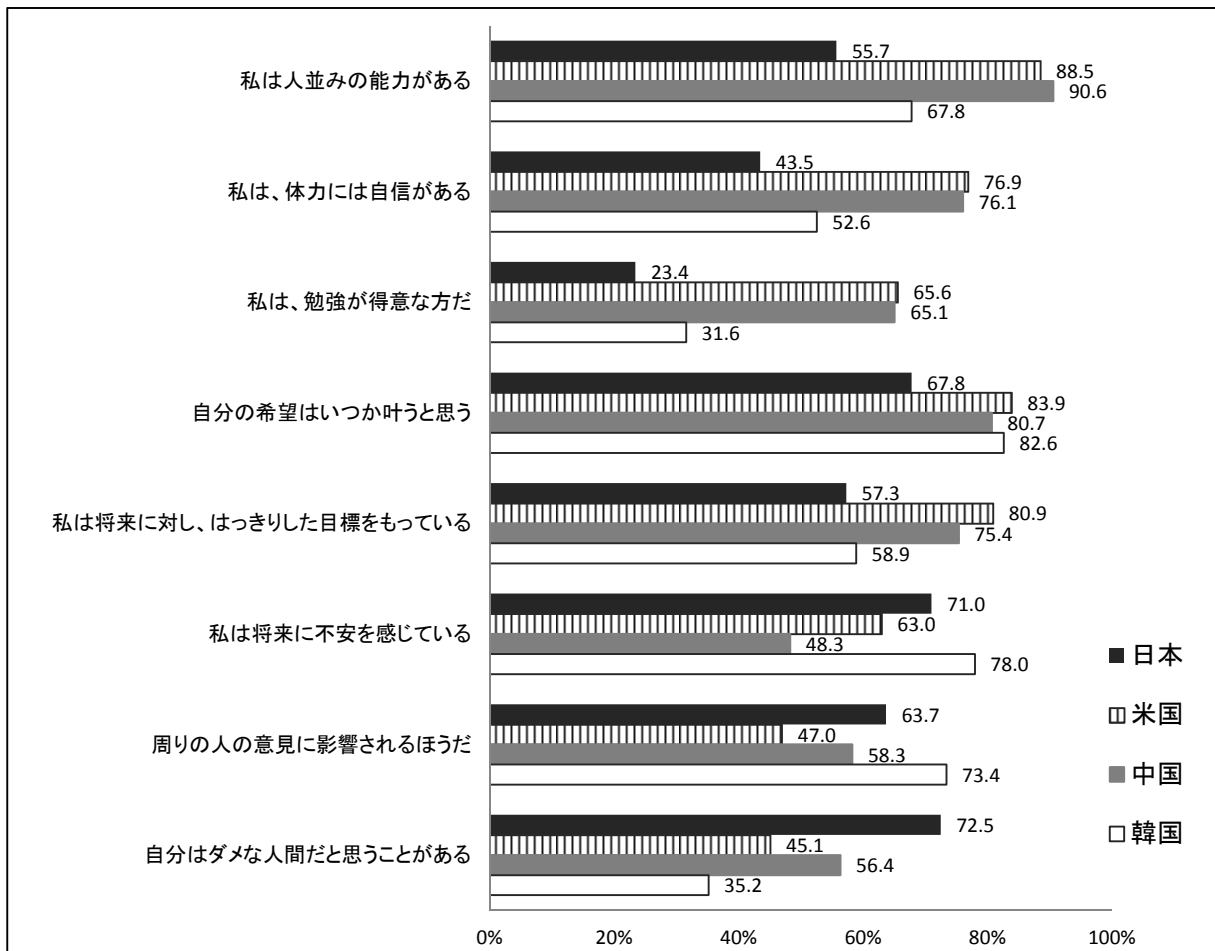


図12 自分について（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合）

8. 自然体験の多寡と、正義感・思いやりがある行動、自尊感情の関係

自然体験の豊富な者は、正義感・思いやりがある行動が多い傾向（図 13）、自尊感情が強い傾向（図 14）が見られる。

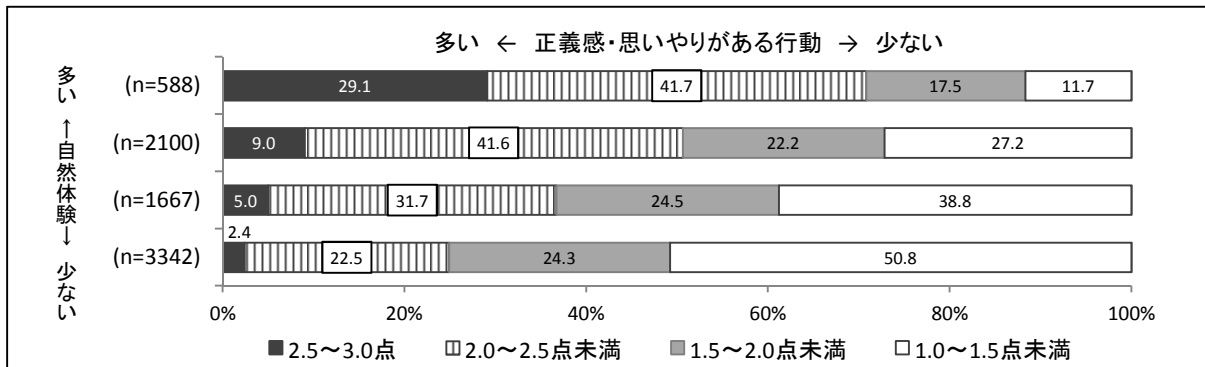


図 13 「自然体験」と「正義感・思いやりがある行動」の関係（4か国全体）

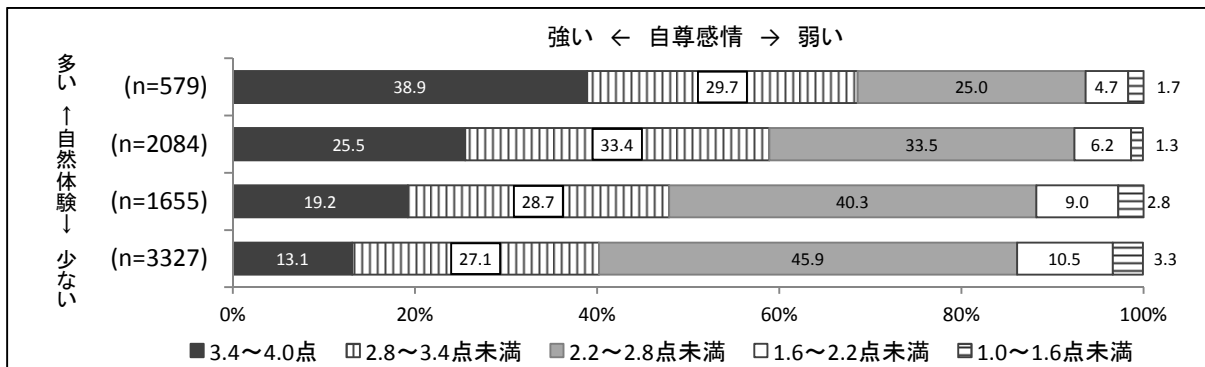


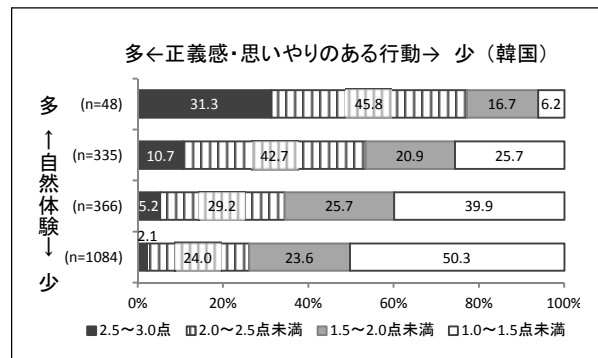
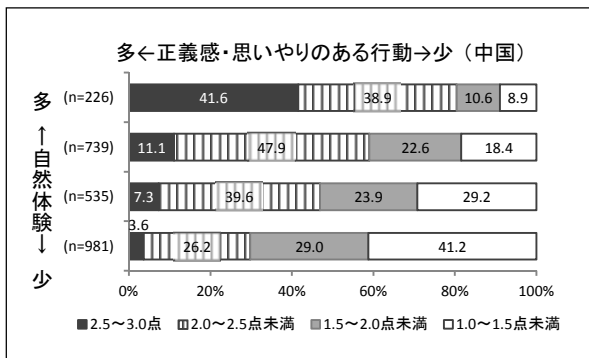
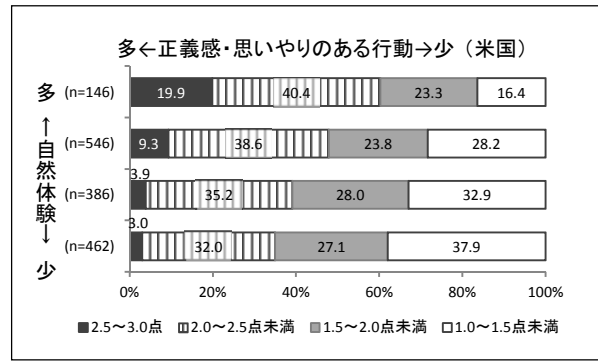
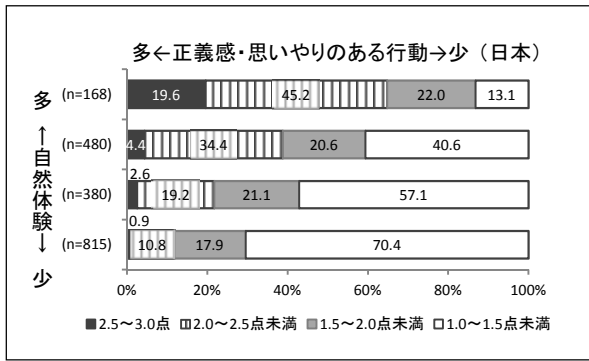
図 14 「自然体験」と「自尊感情」の関係（4か国全体）

表 2 「自然体験」「正義感・思いやりがある行動」「自尊感情」の質問項目

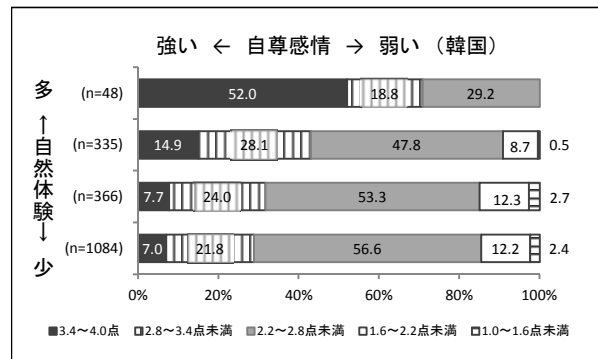
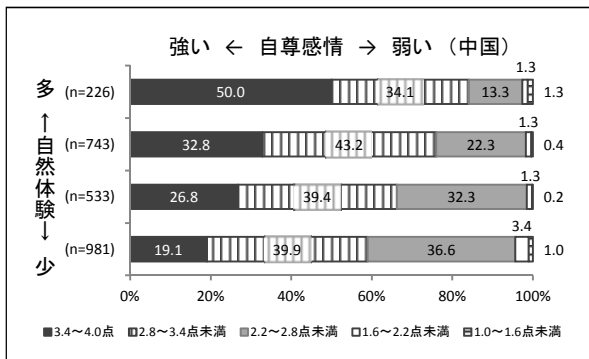
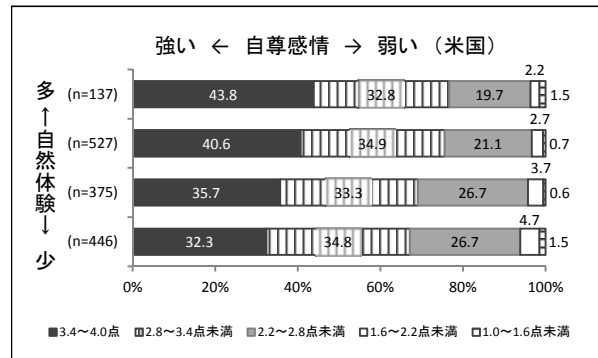
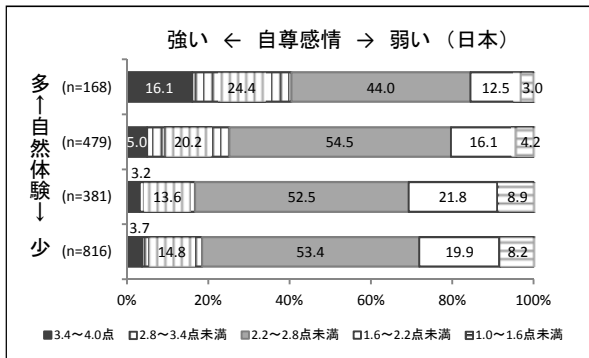
自然体験	キャンプ、山登りやハイキングなどアウトドア活動をしたこと
	野菜や果実の栽培や収穫などの農作業を体験したこと
	虫を捕ったりペットを育てたりしたこと
正義感・思いやりがある行動	道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと
	弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと
	体の不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと
自尊感情	自分には友だちがたくさんいる
	自分は、体力には自信がある
	自分は、勉強が得意な方だ
	私は人並みの能力がある

なお、今回の調査結果と財団法人日本青少年研究所が平成 23 年以前に行った調査結果を比較した経年比較の結果は、「高校生の生活と意識に関する調査報告書」(http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/98/)をご覧ください。

(文責 青少年教育研究センター長 明石 要一
青少年教育研究センター客員研究員 胡 霞)



参考1 「自然体験」と「正義感・思いやりがある行動」の関係 (国別)



参考2 「自然体験」と「自尊心」の関係 (国別)